メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

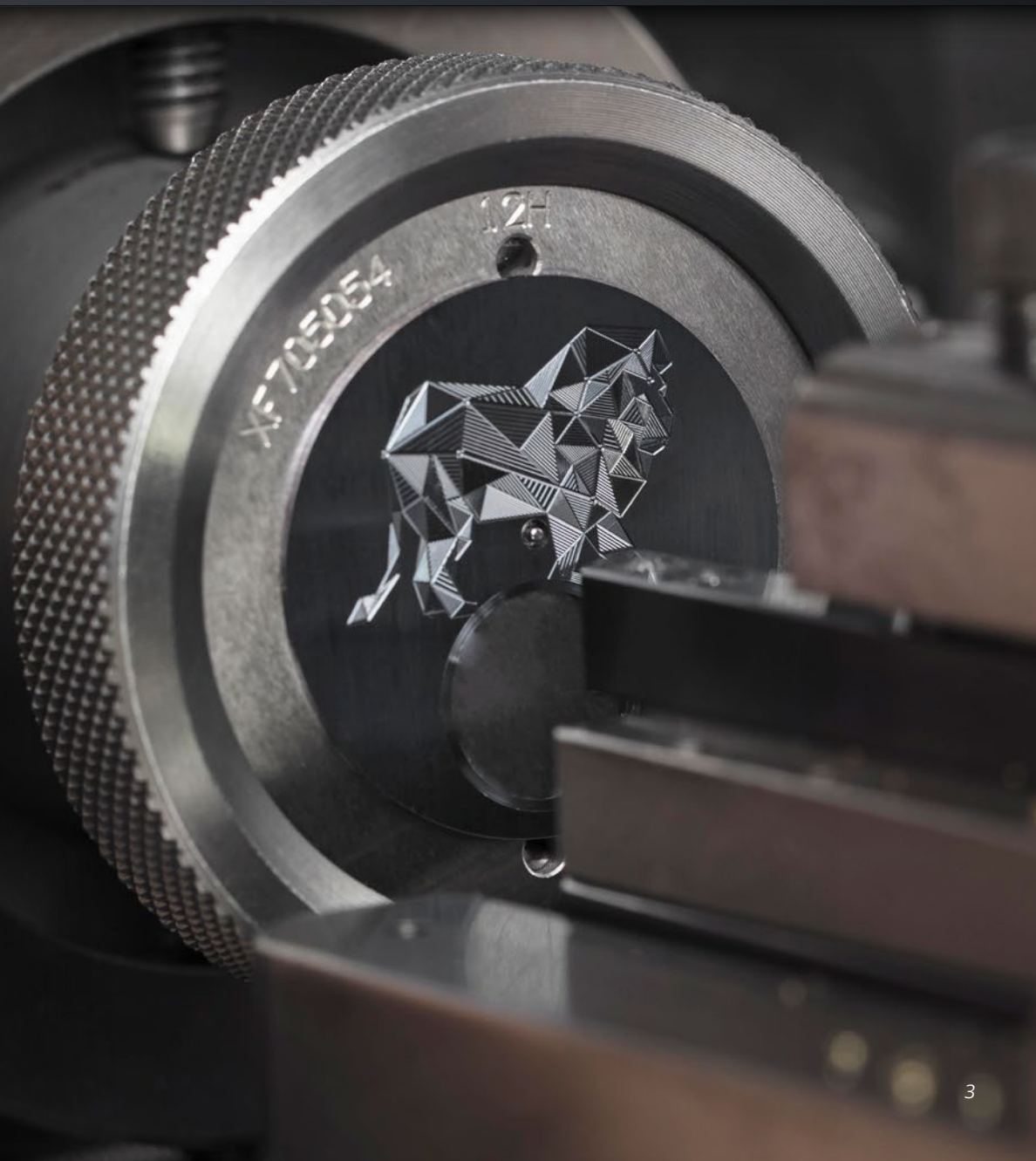
- 熟練のギヨシェ彫り職人は、古の時代からの機械を使って古来の芸術を継承していきながらも、多種多様な無限なデザインを、自由に想像力を発揮しながら創造します。
- 絶えず革新的なスタイルを追求し、ヴァシュロン・コンスタンタンは「フィギュラティブ・ギヨシェ」を発明して伝統に革命をもたらしました。

ギヨシェ彫りの芸術は、単に説明されるだけでなく、無限の時間と精通した2人の手を必要とします。「ギヨシェ彫りは、機械を用いて通常ゴールドである金属を細かく削り取ることで装飾を施した芸術的作品で、繰り返し施される線の幾何学的体系に基づいています。」と、ヴァシュロン・コンスタンタンのギヨシェ彫りの熟練職人と説明します。

具体的には、ギヨシェ彫り職人はモチーフを描くために2種類の機械を使います。一つ目は直線と直線を含むデザインを表現するための直線用機械、二つ目は円や曲線を描くための旋盤機械です。伝統的なパターンには、“クルー・ド・パリ" (ホブネイル)や“バーリーコーン"といった名前が付けられています。ヴァシュロン・コンスタンタンの著名な デザイン「rayon de gloire" (栄光の光線)」のように、中央から放射状に広がるものは “フランケ”と呼ばれます。どの技法においても、職人は究極の手先の器用さと生来の美的センスにより、対称的なモチーフのギヨシェ彫りを施していきます。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE



職人は、一方の手でクランクを回して装飾を施す対象物を動かし、もう一方の手でビュランを装着した台を押し、繊細で規則的な線を彫っていきます。形、間隔、幅を変化させることで、多種多様な無限のモチーフを作り出すことができます。この古来の希少で独特な芸術は、古の時代からの機械を使って施されます。メゾンの職人が使用するのはすべて歴史的なギヨシェ彫り機で、最も近年の機械でも1950年製、最古の機械になると1800年製のものです。

「一つの線ごとにギヨシェ彫りするパターンは、集中力、規則性、そして正確さが必要とされます。」

ギヨシェ彫りの起源は定かではありませんが、16世紀にイタリアの芸術家が石で作った水滴を象った建築装飾から着想を得たとも言われています。イタリア語のgoccia (滴)が、"guillocher"(ギヨシェ職人)と訳される古い言葉であるghiocciareとなったと伝えられています。もう一つの語源は、時計の装飾に適した交差した曲線を彫るためのペダル式の機械を発明した18世紀末のGuillot(ギヨ)という名のフランス人エンジニアに由来するという説もあります。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

これらの古い機械を使い卓越した作品を作るには、職人の芸術的センスと技巧に大きく貢献します。職人はデザイン設定を考え、ビュランにかかる圧力を測り、作業の速度を確認し、そしてそれぞれが一点製作となる作品を作り上げていくのです。「大切なのは、装飾の美しい視認性と光と影が織りなす演出です。」と、メゾンのギヨシェ彫り熟練職人は説明します。「繊細な洗練さと明白な存在感の中間にある道を見つける瞬間的な感触は、控えめさと革新的な卓越性との最適なバランスをとることを意味します。」

その結果、無数の光の効果を放つ作品は、現代の工業的な製造方法で得られるものとは比べものになりません。この「手作業によるギヨシェ彫り」は、腕時計の限られた表面スペース（ダイヤル、ケース、または、回転ローターといったムーブメント部品）に微細な形状を施し、この他に類を見ない仕上がりを完成させるのです。

「 機械は人間の感覚(触覚)の延長でしかありません。」

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

ヴァシュロン・コンスタンタンで最も古い時計にこの模様が施された1780年以降、メゾンは無限に広がるギヨシェ彫りで時計装飾をするようになりました。現在でもさまざまな場所に施されるモチーフは手作業で刻まれます。機械はあくまでも人間の手仕事の延長線上あるものに過ぎません。「ギヨシェ彫りの模様には1本の線毎に規則性、規則性、正確さを必要としまう。模様を作り上げるのは、職人の専門知識や創造力と直結する豊かな経験が頼りです。」と、ギヨシェ彫り熟練職人は語ります。

ヴァシュロン・コンスタンタンの熟練ギヨシェ彫り職人が絶えず革新的なスタイルを追求し、“フィギュラティブ・ギヨシェ"を発明し、伝統に革命をもたらしました。この独自のギヨシェ彫りは、伝統的な機械を使って行われますが、線を真っ直ぐにする代わりに極めて微小なドットを刻みます。このドットは一種の画素になり、多種多様な無限のモチーフを作り出すのに役立ちます。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

フィギュラティブ・ギヨシェで生み出されるデザインは、比類ない力強さと精彩を放ちます。そしてこの技法は、メゾンの優れたいくつかの時計に採用され、とりわけ「メティエ・ダール」シリーズに見事に発揮されています。そこにはギヨシェ彫りの傑出した熟練技術がさまざまなエナメル技法と完璧に融合しています。それを物語る実例といえば、イギリスの植物学者ロバート・ジョン・ソーントンが1799年に出版した有名な『フローラの神殿』に収められたイラストから着想した「メティエ・ダール・フロリレージュ」シリーズの2つのモデルです。熟練のギヨシェ彫り職人は、まず植物の各要素をゴールド製のダイヤルの上にトレースすることから始め、次にギヨシェ彫りで花のモチーフを描き、ひとつひとつの花びらのボリューム感や生き生きとした表情を再現します。モデルによりますが、45から73か所の装飾を彫った後に、モチーフをグラン・フー・クロワゾネ・エナメルで引立て、窯に入れて何回も焼き上げました。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

「アバンギャルドなギヨシェ彫りは、継続的でなくランダムな形を創ることで成り立っています。」

ヴァシュロン・コンスタンタンにおいて、伝統的なノウハウとは革新も意味します。この不変の哲学がメゾンを築き高めてきました。メゾンのギヨシェ彫り熟練職人は、次のように説明します。「アバンギャルドなギヨシェ彫りは、龍やライオンの体の輪郭やたてがみなど、幾何学的でないデザインの輪郭のような継続的でないランダムな形を創り出すことです。」様々なギヨシェ彫り技法と芸術的な工芸品を組み合わせた技は、「メティエ・ダール レ・ユニヴベール・アンフィニ“エンジェル”」にも見て取れます。天使と悪魔が相対して形と色を成すこのモデルのダイヤルは、画家M.C.エッシャーの作品から着想を得たものです。彫金職人はまず、ホワイトゴールドの基盤に絵柄の輪郭を描き、次にシャンルヴェ技法で窪みを彫り、小さな区画を設けます。第二段階では、繊細な線彫りによって悪魔の細部を描き出し、続いて窪みにエナメルを満たします。こうして天使と悪魔を彫り抜き、エナメルを施し、窯に入れて何回も焼き上げます。その後ギヨシェ彫り職人の出番となり、エナメルでコーティングされた天使の衣と翼を加工しています。

技法

ギヨシェ彫り

時計製造で主にダイヤルやケース、あるいはローターなどムーブメントの部品の一部にも用いられる装飾技法であるギヨシェ彫りは、光で陰影を生むので、時計の仕上げの中で最も繊細な部類に属します。交錯する直線や曲線で構成される模様は、クランクとビュランから成るギヨシェ彫り機で作り出されます。職人は、一方の手でクランクを回して装飾を施す対象物を動かし、もう一方の手でビュランを装着した台を押します。ビュランが対象の素材に彫る繊細で規則的な線は、機械に据えられたカムが定める模様をなぞります。ギヨシェ彫り機には、直線や曲線で作る装飾に応じて2種類があります。彫り溝の深さはわずか100分の3から4mmで、これによってクル・ド・パリのホブネイル模様をはじめ、バーリーコーン（グレンドルジュ）、サンバースト（レイヨン・ド・ソレイユ）、バスケットウィーブ（パニエ）など無数の模様が生まれます。さらに「メティエ・ダール・エレガンス・サルトリアル」シリーズでは、クラシカルなメンズウェアの典型的な服地を模した模様まで作り出しました。このコレクションで製作されたタイムピースは、ヘリンボーン、プリンス・オブ・ウェールズ・チェックやタータン、ウィンドゥペン、ピンストライプの各模様で装飾した非常に魅力的なオリジナルダイヤルでした。

タペストリー

これは、実際のタペストリーのような反復モチーフを生成する技法で、パターン（マトリクス、モデル）をベースにして望むデザインを再現します。例えば「エジェリー」コレクションのダイヤルは、その中心部や外周部は、オートクチュールの布地を思わせるプリーツのパターンが施されています。「オリジン」の名でも知られるマトリクス（母型）は、以前はブロンズやビニールで作られ、現在は硬化スティールですが、タペストリー旋盤のビュランを導くのがこのマトリックスです。熟練の職人の微妙な動作を総動員して行われるこの機械彫金によって完璧な装飾が誕生します。この作業は、時にはエナメル職人の熟達して手に委ねられることもあります。

代表的な時計

彫金装飾のゴールド製懐中時計（1780年）

1780年製のこのゴールド製懐中時計は、ヴァシュロン・コンスタンタンのプライベートコレクションでは、ダイヤルとケースにギヨシェ彫りを施した最古のものです。アブラアン=ルイ・ブレゲは、懐中時計のダイヤルにギヨシェ彫りを取り入れた先駆者でしたが、この時計に見られるように、ヴァシュロン・コンスタンタンもブレゲにすぐ続きました。放射状のギヨシェ彫りが施されたダイヤルは、エナメルでローマ数字が描かれ、中央部はシャンルヴェ技法による花束で飾られています。この装飾は当時のルイ16世紀様式に完全に即したものです。ルイ16世紀様式の特徴は、果物や葉と花などで牧歌的なイメージを演出した極めてシンプルな幾何学構成にあり、楽器のモチーフを添えて飾ることもしばしば行われました。洗練された美しいデザインには形とサイズの良好な調和が伴い、これを引き立てるのが、ケースバンドを飾るパウンス装飾として知られる彫金技法の浮き彫りや、ケースバックに施された細かなバーリーコーン模様のギヨシェ彫りです。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

サルタレーロ (2000年)

美を追求した新世代の複雑時計は、1990年代の始めにジャンピングアワーとレトログラードミニッツを取り入れたモデルで幕を開けました。ヴァシュロン・コンスタンタンは、19世紀初頭から懐中時計の分野でこの巧妙なジャンピングアワー表示に精通していました。また20世紀の早い時期からレトログラード表示が備わる特別な時計への関心を高めました。凝ったダイヤルや、ギヨシェ彫り、ペイント、エナメルなどのダイヤルを用いた懐中時計に見られたこれら2つの複雑機構は、もとは時刻表示の新しいスタイルを提示するために時計職人が考案したものでした。非常に独創的な伝統の機構を再び取り上げ、1997年に「サルタレーロ」を発表しました。腕時計ではきわめて珍しいこのような機構はそれ以来メゾンのシグネチャーとなりました。分を示すレトログラード針の動きを引き立てるのは、ピンクゴールドのダイヤルに手作業で施されたギヨシェ彫りで、サンバースト模様が分針の軸からダイヤル全体に広がっています。巧妙なギヨシェ彫りは、ゴールド製のローターにも施され、その姿はステップラグが備わるクッション型ケースの裏面から鑑賞することができます。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

メティエ・ダール - レ・ユニヴェール・アンフィニ“コロンブ”(2011年)

「レ・ユニヴェール・アンフィニ」と名付けられたシリーズは、オランダの画家エッシャーが好んだ「テセレーション」で知られる同じ図形を周期的な繰り返して平面を埋め尽くす技法から想を得て作られ、エナメル、宝石の石留め、彫金、ギヨシェ彫りなど、すべてヴァシュロン・コンスタンタンが精通する職人技が組み合わされています。この「コロンブ(鳩)」のダイヤルは、高級時計製造による高度な表現によって鳩の群れが引き立てられています。彫金職人は土台となるイエローゴールド製のダイヤルに鳩の輪郭をトレースすることから始め、次にシャンルヴェ技法で窪みを彫り、小さな区画を設けてモチーフを造形します。続いてエナメル職人が窪みにエナメルを充填します。これらの窪みは最終の焼成で、彫金によるモチーフが現れるようにするために、鳩の色の応じた透明または乳白色のエナメルで覆われます。そして、ジェムセッティング職人の出番となり、鳩のひとつを宝石で強調します。そして最後にギヨシェ彫り職人が、このダイヤルに奥行き感をもたらします。すでにエナメルで仕上げられたものに最終段階でギヨシェ彫りが施されるのは非常に希です。それは、最後に細心の注意を要する作業が控えているからです。熟練職人は、素材に丹念に彫りを進めるために必要な時間をかけ、交互に組み合わされた鳩に命を吹き込みます。

メゾンの伝統工芸技術
ギヨシェ彫りの熟練職人、
深さに精通する名人

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE

レ・キャビノティエ・トゥールビヨン・ジュエリー - タツノオトシゴ - (2022年)

「レ・キャビノティエ・トゥールビヨン・ジュエリー -タツノオトシゴ-」は、ヴァシュロン・コンスタンタンのさまざまな芸術的技巧がいかに複雑で、互いに補完し合うものであるかを物語っています。このタイムピースで熟練職人は、ダイヤルに十分な奥行き感を演出するために、ギヨシェ彫り、彫金、エナメル、ジェムセッティングの各技法を組み合わせました。まずイエローゴールド製のダイヤルにシャンルヴェ技法でモチーフの輪郭を描き、タツノオトシゴを据えて活気づく海中の場面にギヨシェ彫りと彫金を施すための区画を設けます。モチーフがトレースされると、エナメルで仕上げる区画にギヨシェ彫りと彫金が施されまが、装飾面が小さく、それぞれが互いに離れているため、その作業は何にもまして慎重を要します。続いてダイヤルに透明エナメルで最初の層を焼成してから、忍耐強くクロワゾネ・エナメルの作業が始まり、窯での焼成が3、4回続きます。熟練のジェムセッティング職人は、タツノオトシゴの目を表現するために、サファイアのカボションをベゼルセッティングの技法で取り付けました。宝石は、微妙なブルーのグラデーションを描くバゲットカットサファイアが連なるベゼルへと続きます。このように、巧みな手仕事の熟練ぶりやと細部へのこだわりが、卓越した技術を生み出しているのです。

1755年に創業したヴァシュロン・コンスタンタンは、270年近く一度も途切れることなく時計製造を続ける世界最古のマニュファクチュールであり、卓越した時計製造と洗練されたスタイルを何世代にもわたり熟練の職人により継承し、輝かしい遺産を守り続けてきました。

メゾンが製造する時計は、控えめで気品豊かなスタイルに高級時計の素晴らしい価値が体現され、その一つ一つに、最高峰の職人技と極めて高度な仕上げを施し、ヴァシュロン・コンスタンタンならではの技法や美意識が表現されています。

ヴァシュロン・コンスタンタンは、そのコレクションを通じて、比類ない伝統と革新の精神を実現しています。「メティエ・ダール」、「パトリモニー」、」「トラディショナル」、「オーヴァーシーズ」、「フィフティーシックス」、「ヒストリーク」、「エジェリー」はメゾンを代表するコレクションです。

さらにメゾンでは、時計に精通した時計愛好家のために「レ・コレクショナー」のヴィンテージウォッチや、「レ・キャビノティエ」部門を通じてユニークピースを提案する貴重な機会を提供しています。

#VacheronConstantin
#OneOfNotMany

VACHERON CONSTANTIN
GENÈVE
ONE OF
NOT MANY.